

事業所名

児童発達支援事業所くると 西千葉校

支援プログラム(参考様式)

作成日

7 年

3 月

12 日

法人(事業所)理念

「ひとりひとりの色を輝かせ、未来への可能性を広げる」

くるとは、子どもたちが自分の個性や強みを大切にしながら、自信を持って成長できる場所です。
私たちは、子どもたちが楽しく学びながら、安心して挑戦できる環境を提供し、家族や地域と協力しながら支援を行います。

支援方針

①自己肯定感を育む支援
・小さな成功体験の積み重ね:日々の活動で、子どもたちが達成感を得られる機会を意図的に設ける。
・ポジティブな言葉かけ:具体的な褒め言葉を使い、子どもの努力や成果を認める。
・個別の目標設定:一人ひとりの発達段階に合わせた適切な目標を設定し、達成を支援する。

②社会性スキルの獲得
集団活動の活用:遊びや創作活動を通じて、他者との関わり方やルールの理解を促進する。
基本的生活習慣の確立:日常生活に必要なスキルを楽しみながら身につける機会を提供する。

③総合的な支援アプローチ
家族支援の充実:保護者との連携を強化し、家庭でも継続的な支援ができるよう支援する。
関係機関との連携:保育園・学校・医療機関等と協力し、切れ目のない支援を提供する。

営業時間

9 時

0 分
から

18 時

0 分
まで

送迎実施の有無

あり

なし

支 援 内 容

本人
支援

健康・生活

健康状態の把握、個人の特性を理解した上で、支援が出来るようにする。
就学に向けて必要な生活スキルの向上を目指す。
身の回りを清潔にし、衣類の着脱・食事・排泄など生活に必要な活動を自分で行う。

運動・感覚

模倣訓練・ストレッチ・運動器具を使った遊び(トランポリン・鉄棒・平均台)など様々な運動を通して体を動かす楽しさを味わえるようにする。
模倣やボディイメージができるよう、少しずつ体を動かすことに慣れていき、その中で反射神経や粗大運動面の育成を図る。
身体を使い、様々な表現活動を楽しむ。

認知・行動

実体験を通し、様々な状況やものの認知・理解を広げていく。
絵本・絵カード・音声などの教材も使用し、視覚・聴覚・触覚などの感覚の活性化ができるよう支援する。
様々な音・色・形・感触・動きなどに気付いたり、感じたりすることでものの理解を深める。

言語
コミュニケーション

自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わえるようにする。
日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、他者と心を通わせる喜びを感じられるようにする。
職員と一緒にごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しめるようにする。
言葉がでないお子さまに対しては動作を含めたコミュニケーションを行い、言葉の理解を促しながら動作でのコミュニケーションも促していく。

	人間関係 社会性	安心できる職員との関係の下で、身近な大人や他利用者に関心を持ち、模倣して遊んだり、自ら関わろうとする機会を大切に支援する。 自立に向けて、自分のことは自分で取り組む機会を増やし、一人でできた喜びを感じられるようにする。 状況に応じた気持ちのコントロールができるよう支援する。\$ST等を使用)		
家族支援		事業所内面談にて家庭支援を安定・充実させるための相談援助を行う。 保護者会等(不定期開催)で支援のポイントをレクチャーを行う。 保護者同士が交流する機会を設ける。	移行支援	個々のニーズに応じて保育園・幼稚園等の関係機関と連携を図り、 情報共有を行う。
地域支援・地域連携		地域の連絡会等に参加し情報交換や情報共有を行い、連携を図る。	職員の質の向上	職員に定期的な研修を行い、資質向上を図る。 支援前後や定期的にミーティングやカンファレンスを行うことで 情報共有を行い、統一した支援の提供を行う。
主な行事等		季節ごとのイベント等の企画を行う。		